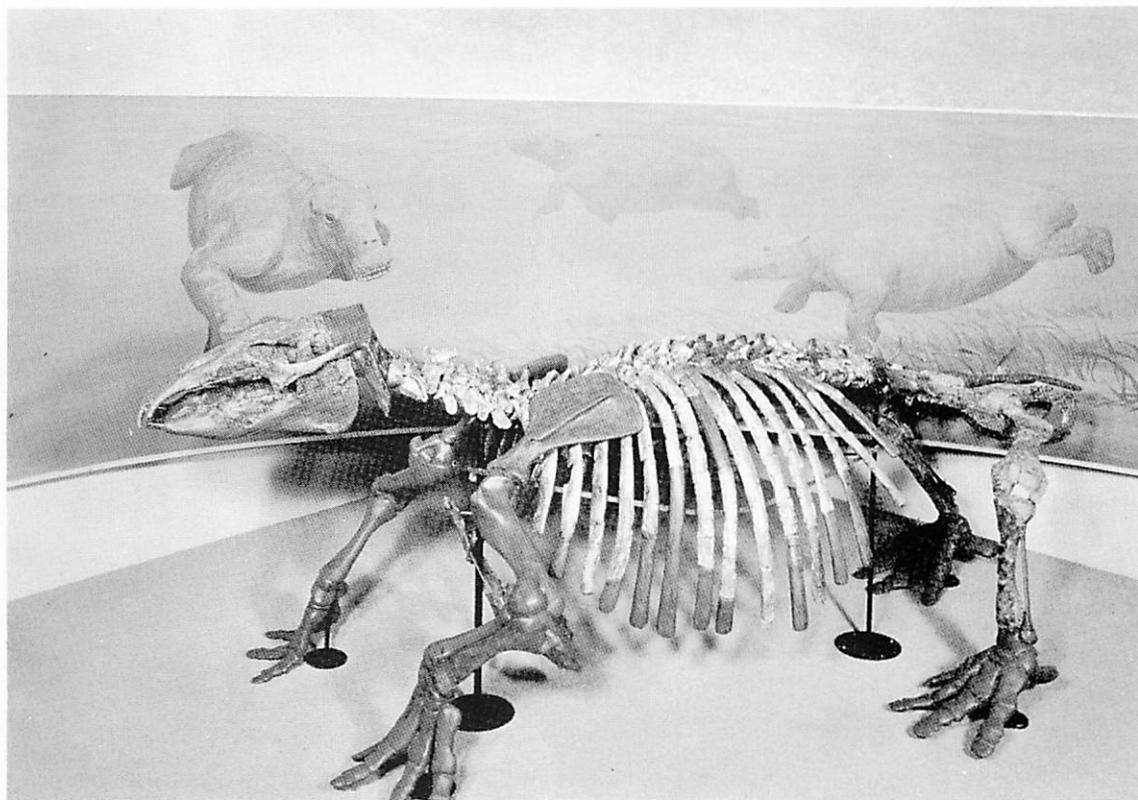


大 博物館だより

1989. 9.

No. 2

津山郷土博物館



津山産パレオパラドキシア骨格復元模型

パレオパラドキシアは、今からおよそ 1500 万年前(新生代第三紀中新世)に生息していた哺乳動物である。この種はすでに絶滅しているが、その姿は現在のカバやバクに似ていたと想像されている。

この化石は、昭和57年に地元の中学生によって発見された。発見された骨は、頭蓋・椎骨・胸廓骨などを含むほぼ全身の骨格であり、このような例は、世界でも数例しかない。

また、パレオパラドキシアが生息していた頃の津山地方は、現在のような盆地ではなく、マングローブが生い茂る熱帯性の海岸部であった。そしてこのような暖かい入江を自由に泳ぎ回ったり、浜辺に上ったりする両生生活をしていたものと考えられている。

平成元年度

特別展

「美作の近世絵画」

— 津山狩野派の絵師たち —

10.14(土) ~ 11.12(日)

狩野派は、近世絵画のなかで最も代表的な流派である。江戸幕府が、狩野派の絵師を御用絵師としたため、諸藩もこぞって同派を学んだ絵師を召し抱えた。津山藩も同様であった。

津山狩野派の祖は洞学幸信である。享保5年(1720)4月松平家に召抱えられるが、元文2年(1737)に暇をした。洞学には、兵四郎(兵治郎)・富信・察信という3人の養子がいる。しかし、兵四郎・富信は数年で離縁し、察信は毛利家に仕えたため、津山における狩野家は断絶する。

その後しばらくして、津山藩には、次のような2系統の狩野家が誕生する。

如林系

如林乗信—如泉成信—如林宗信(松甫)—如春

如水系

如水由信—如真完信—如慶—如柳

初代如林は初名を花沢兵四郎。瀧波家の養子となり、明和6年(1769)に藩から狩野系図をあたえられる。如泉は初名を金田外内。瀧波家の養子となり、文化9年(1812)12月に狩野姓をゆるされる。3代如林は松甫とも名乗り、土甫藩土屋家の藩士で、文

政3年(1820)に如泉の養子となり、安政元年(1854)如林と改名する。如春は松伯・林甫とも称す。

如水は初名を池淵宇助。明和4年(1767)召出され、如水と改める。天明2年(1782)8月に狩野姓を許される。如真は、享和元年(1801)に召出される。文化11年(1814)頃如真と改名。如慶は、天保8年(1837)7月に家督を相続。柳甫は如柳とも名乗り、文久元年(1861)12月召出される。洞学や他の絵師たちの職名は「小坊主」「坊主」「前坊主」である。日常の勤務は、藩主の茶の世話懸かりであり、公務として絵を描くことはほとんどなかった。

主な展示資料

竹林七賢図	狩野洞学幸信	6曲1隻
獅子牡丹図	狩野富信	1巻
山水人物図	狩野如林宗信	6曲1双
お多福図	狩野如林宗信	扇面
吉兆之図	狩野如林宗信	1幅
山水図	狩野如真完信	6曲1隻
旭日波濤図	狩野探幽	1幅
春駒図	狩野常信・洞春・周信等	1幅

記念講演会

日時：10月15日(日) 13:30~15:30

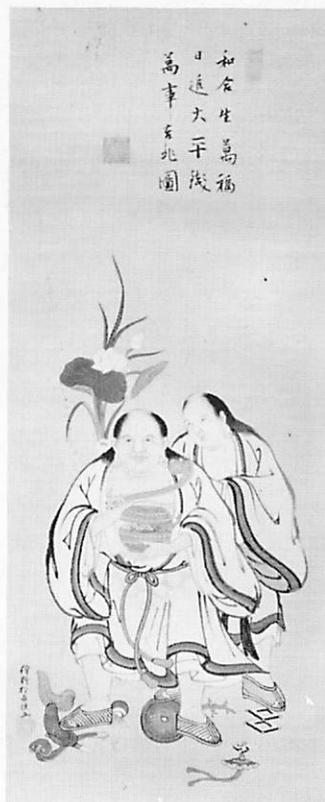
講師：岡山県立美術館学芸員 守安 収

演題：「狩野派の組織と御用」

場所：津山郷土博物館2F研修室



「竹林七賢図」〔部分〕(個人蔵)



「吉兆之図」(個人蔵)

近世絵画の調査

5月から7月まで、津山市を中心とする美作地域の近世絵画を調査した。29家72点の屏風・襖・軸物類で、津山藩の御用絵師の作品を主としており、下記の内訳である。

広瀬臺山	14点
飯塚竹斎	34点
狩野如林乗信	3点
狩野如林宗信	14点
狩野如水由信	2点
狩野如真完信	5点

津山藩の御用絵師では、広瀬臺山が最も著名である。飯塚竹斎は臺山の弟子であるが、これまでは竹斎の作品が少なかったため、あまり紹介されていない。今回の調査では、半数ちかくが彼の作品で、成果は十分たるものであった。この欄で竹斎について少し紹介する。

竹斎は名は翥、字は君鳳、寛政8年（1796）9月8日に、広瀬半助の5男として生まれる。幼名を漢之丞という。文政元年（1818）8月朔日、飯塚弥城の養子となり、同2年6月19日に七五三と、また同7年5月9日に与作と改める。早くから学才をしめし、「学問出精、四書講釈等も相成」といわれている。広瀬臺山風就いて画法を学んだのは、おそらく15歳前後であろう。文政2年に江戸から津山に帰っている。藩の儉約令によるもので、このため20代後半から30代を通じて失意の日々を送ったようである。「文武共不出精の上、平日の行状宜からず趣相聞、心得違の至不埒の事」であり、以後は遊芸・遊山・獵は勿論、酒宴の席に出ることを禁止され、文武に励むように申渡される。

天保12年（1841）7月7日家督を相続するが、弘化4年（1847）正月8日、中風で奉公出来がたいとして、嫡子に家督を譲った。なお、その後も画業に励んだといわれている。文久元年（1861）9月18日死亡。

作品には、臺山風の山水画が多く、花鳥画もみられる。描いた年代を記入した作品は、そのほとんどが天保・弘化期（1830～1847）のものである。

竹斎の号を用いた時期は早く、文化元年（1804）9歳の作品があ

水齋
源
翥
君鳳
印

り、「孝秋之印」「少陽氏」の落款を使用している。天保・弘化期には、「翥之印」「君鳳」「孝秋」「竹斎」「翥字君鳳号竹斎」「古拙居士」「源翥印章」などを使用している。作成時期の不明な作品では、「竹斎」「筆飛將軍」があり、今後竹斎と彼の作品を調査する参考としたい。

なお、狩野派関係の作品については、10月14日から開催する特別展を通じて紹介する。

◀ 竹斎の印



広瀬臺山「山水図」（個人蔵）



飯塚竹斎「山水図」（個人蔵）

受贈資料一覧 (昭和63年度)

資料名	員数	寄贈者	岡山県地誌略、日本略史他 56点 中村満里子 (敬称略)
ピカリア、ツリテラ他	159点	大林 篤禧	
ピカリア、ピカリエラ他	70点	田辺 満雄	※資料の詳細については省略させていただきます。
ウニ、ホタテ貝	5点	国分 博治	なお、御寄贈いただきました資料は、博物館資料として、永く保存活用いたします。
須恵器甕片、弥生土器片他	一括	前原 策馬	どうもありがとうございました。
瓦経片、石鏃、紡錘車	5点	植月 壮介	
ナイフ型石器、剥片他	27点	安川 豊史	
軒丸・平瓦、須恵器杯身他	19点	藤井文右衛門	
耳環他	4点	下山 圭司	

受託資料一覧 (昭和63年度)

資料名	員数	寄託者	玉置家文書 1062点 玉置 芳久 土居家文書 283点 土居 敬 羽紫秀吉書状他 2点 牧山 政雄 看板 1点 稲谷 明 松平齊民書 1点 横山ふくよ 花鳥図(広瀬台山筆)他 3点 荻田 善政 伝キリシタン灯籠 1点 中西 秀夫 陣羽織、火消装束他 12点 土岐 元米 鉄盾 一対 徳守神社 米切手、写真帖他 6点 斎藤 厳 鰐口 1点 妙法寺
茶釜	1点	中島 宏	
クジラ、コハク	4点	大林 篤禧	
鬼の面	1点	津本 幸士	
経筒、経筒外容器他	46点	万福寺	
仿製鏡、和鏡	3点	斎藤 厳	
円面硯、須恵器杯蓋・杯身	3点	高谷 宗勝	
家形陶棺	1点	田中 孝照	
須恵器杯蓋・杯身・甕片他	一括	前原 策馬	
縄文土器片、凹石他	一括	美甘 隆夫	

博物館スケジュール

	10	11	12	1	2	3
特別展 「美作の近世絵画」	10/14~11/12	〔 記念講演会10/15 「狩野派の組織と御用」 岡山県立美術館学芸員 守安 収 〕				
講座 中世文書を読む	○10/21	○11/18	○12/16	○1/20		
講座 津山市史講座	○10/14	○11/11	〔 10/14「岡山県中国山地の旧石器」 岡山理科大学助教授 小林 博昭 11/11「山中一揆について」 岡山大学付属図書館 中野美智子 〕			
美作の文化財めぐり		○ (津山市内)			○ (柵原町方面) ○	

〈博物館入館案内〉

- 開館時間 午前9:00~午後5:00
- 休館日 毎週月曜日・祝日の翌日
12月27~1月4日 その他
- 入館料 小・中学生 100円 (80円)
高校・大学生 150円 (120円)
一 般 200円 (160円)

※ () は団体、団体は30人以上

★博物館だより No.2

発行年月日 平成元年9月30日
編集・発行 津山郷土博物館
〒708岡山県津山市山下92
TEL(0868)22-4567

★は、旧津山藩の楳印で剣大といい、現在津山市の市章である